

2023年6月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回7月のてがたんは7月8日(土)で、テーマは「はってからんで巻きつく植物」です。ぜひご参加ください。7月1日(土)の8時30分から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は7月2日(日)です。

6月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼ふれあいライン→鳥の博物館の裏山→水生植物園藤棚
- 観察日時と天気：2023年6月10日(土) 10:00~12:00 曇り
- 参加人数：16名(大人12名、子ども4名)
- 市民スタッフ：5名(石原直子、北村章子、小泉伸夫、伊東茂子、木村稔)
- 博物館友の会スタッフ：1名(古澤紀元)
- 鳥博職員：1名(望月みずき)

観察した生き物の記録

「*」は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】キジ科：キジ／カモ科：カルガモ／カイツブリ科：カイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：ダイサギ／キツツキ科：コゲラ／ハヤブサ科：チョウゲンボウ*／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ツバメ科：ツバメ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／エナガ科：エナガ／ヨシキリ科：オオヨシキリ／セッカ科：セッカ／ムクドリ科：ムクドリ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ／アトリ科：カワラヒワ／ホオジロ科：ホオジロ
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)／ドバト(ハト科)

【昆虫】トンボ目：オオシオカラトンボ／ゴキブリ目：モリチャバネゴキブリ／バッタ目：タンボコオロギ、マダラスズ、キンヒバリ、シバズ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、ヒシバッタ、コバネイナゴ／カメムシ目：ヨコヅナサシガメ、ツマキヘリカメムシ、マルカメムシ、イセリヤカイガラムシ／アミメカゲロウ目：ウスバカゲロウ／チョウ目：ルリシジミ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、キタテハ、ジャコウアゲハ、ナミアゲハ、モンシロチョウ／コウチュウ目：オオヒラタシデムシ、ノコギリクワガタ、コアオハナムグリ、ヤノナミガタチビタマムシ、ヒゲコメツキ、ヒメアカホシテントウ、ナミテントウ、クロウリハムシ、コガタルリハムシ、ウスモンカレキゾウムシ／ハサミムシ目：ハサミムシ

【魚類】タウナギ目：タウナギ*／コイ目：フナ的一种* 【爬虫類】トカゲ目：カナヘビ、アオダイショウ*

【クモ】ジグモ、シロカネイソウロウグモ、ゴミグモ、コクサグモ、フクログモ科の一種

【陸産貝類】ウスカワマイマイ、オナジマイマイ、ヒダリマキマイマイ*、ミスジマイマイ、ナミコギセル、オカチョウジガイ、コシダカシタラ、ミジンマイマイ、ベッコウマイマイの一種、ナメクジ

【草の花】トクサ科：イヌスギナ／ドクダミ科：ドクダミ／ラン科：ネジバナ／アヤメ科：ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ／ツユクサ科：ノハカタカラクサ(トキワツユクサ)、ツユクサ／ガマ科：ヒメガマ／イグサ科：クサイ／イネ科：ネズミムギ、カモガヤ、スズメノヒエ、ムギクサ、エノコログサ、セイバンモロコシ／ケシ科：ナガミヒナゲシ／キンポウゲ科：ケキツネノボタン／ブドウ科：ヤブカラシ／フウロソウ科：アメリカフウロ／アカバナ科：ユウゲショウ、コマツヨイグサ／マメ科：シロツメクサ、コメツブツメクサ／バラ科：ヘビイチゴ／カタバミ科：ムラサキカタバミ、アカカタバミ、カタバミ、オッタチカタバミ／アブラナ科：マメグンバイナズナ／ナデシコ科：ツメクサ、ノミノツヅリ／ナス科：アメリカイヌホオズキ／オオバコ科：オオバコ、ヘラオオバコ、オオイヌノフグリ／クマツヅラ科：クマツヅラ／キキョウ科：キキョウソウ／キク科：ハルジオン、ヒメジョオン、オニタビラコ、ウラジロチチコグサ、ハハコグサ、セイヨウタンポポ、ノゲシ、オニノゲシ、ノボロギク、ブタナ、コセンダングサ、ヒレアザミ、オニタビラコ

【木の実】ブナ科：クリ、マテバシイ／トウダイグサ科：アカメガシワ／アジサイ科：アジサイ／モクセイ科：ネズミモチ／シソ科：ムラサキシキブ

6月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「でんでんむしむしかたつむり」でした。初めにカタツムリのクイズをいくつか行い、その後道沿いで様々なカタツムリを探しました。観察会では9種、下見で採集していた種類も合わせると10種類ものカタツムリ類を見ることができました。



今月の案内人
望月みずき・石原直子



① 通気孔で休息していたミスジマイマイ



② 身近な種類のウスカワマイマイ。乾燥に強く、堀についていることが多い

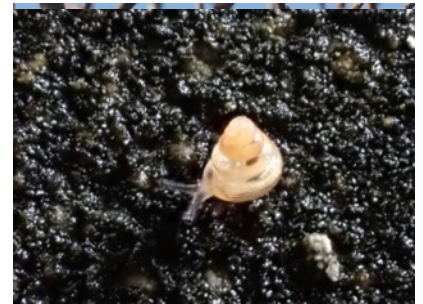
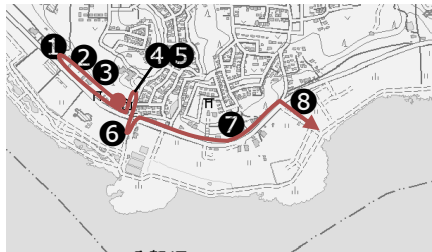


③ ベッコウマイマイの一種。全長7mm



④ 細長いカタツムリのナミコギセル

歩いたルートと観察した生き物



⑤ 大人になっても殻が1.5mmほどの極小サイズのコシダカシタラ



⑥ 定点観察の桜についていたナメクジ



⑦ 参加者が見つけたオカチョウジガイ。地面を少し掘ると見つかることが多い



⑧ 藤棚周辺で見られたオナジマイマイとウスカワマイマイ(右手前)

今月の鳥 カタツムリと鳥の関係

鳥たちは様々なものを食べて生きています。その中でも昆虫や小動物を食べる雑食性の鳥たちは、カタツムリを食べることがあります。特に、産卵期のメスはカルシウムを多く含んだ卵を産むため、カタツムリを好んで食べる傾向があるとされています。実際、繁殖期のメスのキジバトの胃内容物を調べていると、カタツムリの仲間が出てくるのが何度かありました。また、カタツムリをよく食べる鳥として、南半球のニューカレドニアに生息するカレドニアガラスがいます。カレドニアガラスは10cmもある大きなカタツムリを樹上から岩に落として殻を割って食べます。硬い殻を割りやすいよう、特定の岩場を使って効率よく殻を割るなどの工夫も見られます。



北海道に生息していたキジバトの胃から出てきたヤマボタルガイ